



国際ロータリー第266地区

地区委員会
活動計画書

1987～'88年度

ガバナー 松本良諄

1987年 7月 18日(土)
於：新阪急ホテル

「奉仕の理想」

作詞・元京都RC 前田源一郎

作曲・元東京RC 萩原 英一

奉仕の理想に 集いし友よ

御国に捧げん 我等の業い

望むは世界の 久遠の平和

めぐる歯車 いや輝きて

永久に栄えよ 我等のロータリー

ロータリー

ロータリアン——

奉仕に結束—平和に献身



目 次

扉・目次

地区組織図表

着席表

プログラム…………… 3

合同地区委員会開催に当って

ガバナー 松本 良諄………… 5

地区ガバナー指名委員会…………… 7

意義ある業績賞委員会…………… 8

クラブ奉仕部門

会員増強委員会…………… 9

広報・雑誌委員会……………10

規定情報委員会……………11

ロータリーの友委員……………13

職業奉仕部門

職業奉仕委員会……………14

社会奉仕部門

社会奉仕委員会……………16

緑化推進委員会……………18

青少年奉仕部門

青少年活動委員会……………21

ローターアクト委員会……………22

インターアクト委員会……………25

国際奉仕部門

世界社会奉仕委員会……………27

青少年交換委員会……………28

米山奨学委員会……………33

国際交流委員会……………34

ロータリー財団部門

ロータリー財団委員会……………36

財団奨学金委員会……………37

研究グループ交換委員会……………38

財団増進委員会……………39

財団学友委員会……………40

ポリオ・プラス委員会……………41

拡大部門

拡大委員会……………46

地区財務委員会……………48

地区大会……………51

国際ロータリー第266地区1987~'88年度合同地区委員会着席表

◎マイク

司会	<table border="1"> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>P</td><td>P</td><td>P</td><td>P</td><td>P</td><td>G</td><td>P</td><td>真</td><td>P</td><td>P</td><td>P</td><td>G</td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>G</td><td>G</td><td>G</td><td>G</td><td>G</td><td>G</td><td>G</td><td>G</td><td>G</td><td>G</td><td>G</td><td>G</td><td>N</td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>中西</td><td>世戸</td><td>種田</td><td>幸村</td><td>伊藤</td><td>松本</td><td>原田</td><td>坂東</td><td>伊瀬</td><td>戸田</td><td>中村</td><td>古田</td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>正一</td><td>一夫</td><td>憲次</td><td>英次</td><td>恭一</td><td>良諄</td><td>秀雄</td><td>宏</td><td>芳吉</td><td>孝一</td><td>俊一</td><td>敏二</td><td></td><td></td><td></td> </tr> </table>																													P	P	P	P	P	G	P	真	P	P	P	G				G	G	G	G	G	G	G	G	G	G	G	G	N			中西	世戸	種田	幸村	伊藤	松本	原田	坂東	伊瀬	戸田	中村	古田				正一	一夫	憲次	英次	恭一	良諄	秀雄	宏	芳吉	孝一	俊一	敏二			
P	P	P	P	P	G	P	真	P	P	P	G																																																																														
G	G	G	G	G	G	G	G	G	G	G	G	N																																																																													
中西	世戸	種田	幸村	伊藤	松本	原田	坂東	伊瀬	戸田	中村	古田																																																																														
正一	一夫	憲次	英次	恭一	良諄	秀雄	宏	芳吉	孝一	俊一	敏二																																																																														

◎移動マイク

◎移動マイク

《着席表》

国際奉仕部門

世界社会奉仕	G	P	青少年交換
本田	山本	堀内	喜井
次男	康隆	晴夫	宏章
古田	戸田	人江	清夫
敬二	孝一	和夫	清雄
宮田	敬二	孝一	清雄
喜井	宏章	和夫	清雄
堀内	晴夫	宏章	清雄
喜井	宏章	和夫	清雄
喜井	宏章	和夫	清雄
喜井	宏章	和夫	清雄

米山奨学 国際交流

重光	三好	島津	小杉	木梨	中川	稲本	野村	嘉納	松本	浅桐
世正	正三	三郎	正夫	藤一	見	浩司	尚	紀夫		

次期地区幹事

拡大部門

伊瀬	芳吉
坂大	好
北野	誠一
三好	誠一
高林	辰行

拡大

田代	通
藤本	哲雄
森藤	憲一

クラブ奉仕部門

山本	三雄
中谷	治
大枝	朗
和田	俊一
八田	昌三
坂東	宏
吉野	昭夫
大西	淳
板垣	周男
江原	政吉
横山	俊彦

広報・雑誌

伊藤	徳次郎
中村	寛
足達	忠利
鍛冶	豊治

地区財務

田	裕
計	田
吉	川
金	子
竹	内
秀	一
義	高
貢	

地区幹事

財団増進 財団奨学金

濱田	芝	種田	白羽	名張	高士	大川	森川	阿倍	西田
中	社	憲次	右衛門	隆政	修	進一郎	晃	陽一	
純	哲夫	照史							

財団学友 研究グループ交換

木田	仲田	古田	木村	東川	村上	細江	伊地	錢谷	増田	山
本川	中	敬三	英一	平	介	重	善	力	鼎	真
武弘	芳樹	康仁	稔	稔	介	重	善	力	鼎	真

ポリオ・プラス

山	中	文	和
三	好	阪	吉
三	好	阪	吉
三	好	阪	吉

カメラ SAA

地区大会

松井	弥之助
大谷	國明
牧野	耕二

緑化推進

山本	研二
武田	宏
岡井	東一

職業奉仕部門

菅持	敦
三宅	謙伍
龜井	節治
大西	和夫

職業奉仕部門

中村	俊一
中西	正一
永野	啓之介
派田	実男
寺井	種伯
三好	宏
新津	敬直
安川	隆三
藤田	静雄

社会奉仕部門

ロータリーアクト 青少年活動

堀岡	神戸	大西	辻	飯原	日幸	橋本	世戸	諏訪	村上	大山	山田	津田
見典	昭夫	吉和	弘章	等	憲之	一夫	正美	昭夫	寛二	宏		

インターアクト

朝倉	仲野	藤井	重村	的場	平岡	二宮
良	欣	則	泰	勝	龍	正彦

青少年奉仕部門

国際ロータリー第266地区
1987～'88年度 合同地区委員会

プ ロ グ ラ ム

昭和62年7月18日(土) 10:30～
於：新阪急ホテル 2F 紫の間
進行・地区代表幹事 藤本 鐵三

09:30	登録開始	
10:30	開会・点鐘 ロータリー・ソング「奉仕の理想」	ガバナー 松本 良諄
10:30～12:00	本 会 議 就任挨拶・参加者紹介 退任ご挨拶 委員会本年度の方針と活動	ガバナー 松本 良諄 直前ガバナー 坂東 宏 各委員会 委 員 長
12:00～13:00	休憩・昼食	
13:00～14:30	本 会 議 委員会本年度の方針と活動	各委員会 委 員 長
14:30～14:45	休 憩	
14:45～15:55	委員会本年度の方針と活動 地区資金の運用について その他	各委員会 委 員 長 財務委員長 竹内 貢
15:55	閉会の挨拶 ロータリー・ソング「手に手つないで」	ガバナー 松本 良諄
16:00	点 鐘	ガバナー 松本 良諄

合同地区委員会開催に当って

ガバナー 松本 良 諄

本年度の地区各委員会の活動方針につきましては、去る4月18日に行いました「次期地区委員長合同会議」に於いて申し述べ、更に5月16日に開かれた「1987～'88年度のための地区協議会」での「次年度の方針」の中で種々申し上げた通りではありますが、今日ここ「合同地区委員会」を開催するに際し、国際ロータリーの本年度テーマ

ロータリアン — —

奉仕に結束 — 平和に献身

にそって、もう1度大要を申し上げることにいたします。

ケラーRI会長は、先ず3つの前提

- (1) 国際ロータリーが史上最大の規模に達した今日、吾々のロータリーに取り組む課題も最高のものでなければならない。
- (2) 努力と献身によって、吾々の年度を忘れることのできない年とするため十分な準備を心掛けねばならない。
- (3) ロータリー活動に後退や失敗の危険がないよう、現在直面している問題を分析し、これに果敢に挑戦すべきである。

そうして、そのために9つの課題を敷衍いたしました。

さて私は、これらを踏まえて、地区の活動方針を次の通り策定いたしました。

1. サブ・テーマはつくらず、RIのテーマ1本に絞りました。
2. 社会奉仕部門の中に「緑化推進委員会」を新しく構成、ロータリー財団部門の中に「ポリオ・プラス委員会」を指示に従って新しく編成しました。
3. ポリオ・プラス・キャンペーンへの挑戦

本年度はポリオ・プラス・キャンペーンの最も重要な年度であり、最も優先すべきプロジェクトなるが故に、主旨の徹底をはかって募金の円滑な活動を期さねばなりません。

4. ロータリー情報の徹底

地区協議会に於いても、「ロータリー情報部門」を設けて出席を義務づけましたが、本年度を「ロータリー情報強調年」とでも呼称いたしたく、直前ガバナーに「ロータリー情報コーディネーター」を委嘱して、前年度末完成した「システム・マニュアル」を最大限に活用することを期したいと思います。

5. 緑化推進運動の展開

1990年当地区内で開催される「国際花と緑の博覧会」を成功させるためにも、この新設委員会に最適の人事が得られたので、地区を「みどり」で埋め尽すような運動を展開したいと存じます。

6. 国際理解と親善

「平和に献身」がR Iのテーマの1つです。今や「経済戦争」といわれる厳しい国際環境の中で、世界理解と国際親善は一刻もゆるがせにできない課題であります。年度初めに豪州からローターアクターが地区を訪れています。秋にはこちらから青年たちアクトが豪州を往訪いたします。大いに理解と親善に資することでありましょう。

7. 会員の増強とクラブの拡大

前年度に引続いて本年度も50名未満クラブの増強をはかり、50名以上のクラブの退会者防止に意を致し、新クラブの創設に十分な努力をお願い申し上げます。

8. 社会奉仕活動の強化

高令者問題の取組み、ボランティアの発掘など社会奉仕活動の門戸をより広げて推進して行きたいと思えます。

9. 均整のとれた奉仕活動

各奉仕部門は経験豊かな元R I役員にご担当をお願いし、今日お集りの選りすぐりの委員各位を夫ぞれご委嘱申し上げましたが、どの奉仕部門も同等に重要なため、何れに偏重するということなく、各々バランスのとれた奉仕活動を行いたいものと念願しております。

以上意の在るところを要約申し上げますが、既に地区各委員会では、この方針に基づき活動計画を策定して、本日計画書として発表されました。

各クラブに於かれましては、この活動方針をご理解頂き、地区活動にご協力下さいますようお願い申し上げます。

地区ガバナー指名委員会

委員長	坂東 宏 (吹田)	委員	伊瀬芳吉 (池田)
委員	原田秀雄 (大北阪)	同	種田憲次 (大阪住吉)
同	伊藤恭一 (大阪)	同	戸田 孝 (八尾)
同	田宮 佐 (高槻)	同	世戸一夫 (大阪難波)
同	峯村英薫 (大阪東)	同	中村俊一 (東大阪)
同	平井常次郎 (大阪南)	同	中西正二 (大阪西)
同	菅生謙三 (大阪北)		

- (1) 地区ガバナー指名委員会規約に基づき、ガバナー月信No.2において、1989～1990年度の地区ガバナーノミニー候補者の指名を、各クラブより提案するように要請し、その最終期限を9月末日とする。
- (2) 10月初に指名委員会を開き、出来るだけ10月中に候補者の指名を行い、ガバナー月信No.6乃至No.7で公示し、No.7乃至No.8で宣言する。

意義ある業績賞委員会

委員長 坂 東 宏 (吹 田)

同 中 西 正 二 (大 阪 西)

同 中 村 俊 一 (東 大 阪)

- (1) ガバナー月信No.2において、選定基準と委員会に関する発表を行い、申請期限を10月末日とすることを公示する。(申請手続については「手続要覧」41～42頁参照)
- (2) 選考委員会を11月中に開催し、12月1日までに受賞候補クラブをガバナーに送達する。
- (3) 各クラブに対しては、選定基準の厳格性を求めず、幅広い奉仕活動の報告に基づき申請することを奨励する。

ク ラ ブ 奉 仕 部 門

担当パスト・ガバナー 坂 東 宏 (吹 田)

会 員 増 強 委 員 会

委員長 八 田 昌 三 (豊 中 南)
委員 和 田 俊 一 (大 阪 平 野)
同 大 枝 朗 (吹 田)
同 中 谷 治 (大 阪 城 東)
同 山 本 三 雄 (大 阪 淀 川)

会員増強については、R.I. ケラー会長の目標の中にも『地区内のロータリアン数の3%純増』及び、『クラブ会員の退会防止に協力すること』などが提唱されております。

また地区ガバナーも『50人未満のクラブ』に対し、50人以上達成の努力を要請するとともに『中堅以上のクラブでの退会防止とその理由の調査』などを方針として示されております。

当委員会では、これらを踏まえ本年度の活動計画を下記の通りとし、目標達成に努力したいと思っております。

(1) 前年度に引続き、50人未満のクラブ増強に力を注ぐと共に、中でも創立満3カ年以上を経過し、且つ、40名を下廻っているクラブについては、現況を十分に研究することに努めたい。

(2) 地区内全体の会員数純増平均3%の目標に対し、

イ.	50人未満のクラブ	6%	純増3名目標
ロ.	51～75人	3%	” 2名 ”
ハ.	76～100人	2%	” 2名 ”
ニ.	101人以上の	1.5%	” 2名 ”

の具体的目標を設定し、その達成に各クラブの協力をお願いしたい。

- (3) 退会防止について、退会者の在籍年数等をアンケート調査し、主たる要因を把握し、退会防止の一助としたい。
- (4) 会員がシニア・アクティブとなり空白となった職業分類の再充填状況を調査することも、会員増強に資すること『大』と思われるので調査を試みたい。
- (5) クラブの活性化を計るためには、クラブの平均年令の上昇を喰い止めるのが肝要と思われ、可能な限り若年層会員の獲得にも格段の配慮を払うよう啓蒙して行きたい。

広 報 ・ 雑 誌 委 員 会

委員長	中 村 覚 (大阪北)
委員	柴 田 俊 治 (大阪西)
同	足 達 忠 利 (吹 田)
同	山 下 和 彦 (大阪北)
同	鍛 冶 豊 治 (大阪心斎橋)

I. 活 動 方 針

ロータリーの綱領・精神と地区内クラブの活動を広く知ってもらうために、各クラブ広報委員長と連携をとり、新聞・放送等の報道機関に広報材料を提供し、協力を要請する。

また、「ロータリーの友」が愛読されるよう、地区各クラブからの寄稿を推奨することに努めたい。特に会員間のコミュニケーションの場となるように努力したい。

II. 活 動 計 画

- (1) 8月25日、大阪ターミナルホテルで恒例の在阪主要新聞、放送の幹部（特にロータリーの活動に理解を示されている）と地区ガバナーとの懇談会を開催する。

今年は特に「恵まれない身障児の白浜招待旅行」について、地区社会奉仕委員長の

- 出席を得て、早目に広報活動を展開したい。
- (2) 9月上旬には(1)を受けてクラブ広報委員長会議を開催し、種々討議したい。
 - (3) 9月下旬にはクラブ雑誌委員長会議を開催し、種々討議したい。
 - (4) 地区全体のニュースや、広報資料は地区委員会から報道機関へ送付し、取材要請する。各クラブのニュースは夫々のクラブからロータリー担当記者に送付、取材要請をさせていただくものとする。
 - (5) 「ロータリーの友」その他一般的な資料をガバナー事務所から定期的に各報道機関に送付し、基本的な認識を持ってもらい、関心を高めてもらう要請をする。
 - (6) 4月の雑誌月間には、「友」の地区委員とも連絡し、役立つ情報を各クラブ雑誌委員長へ送付する。
 - (7) 今年度も各新聞社の記者クラブ、テレビ局報道部門等のリストの改訂版を各クラブへ配布したい。

規 定 情 報 委 員 会

委員長	吉 野 昭 夫 (大阪 駅)
委員	大 西 淳 (大阪 平野)
同	板 垣 周 男 (豊中 大阪国際空港)
同	江 原 政 吉 (茨木 東)
同	横 山 俊 彦 (大阪 鶴見)

本年度当委員会の活動は、つぎの通り計画いたしました。

当地区、今年度は『ロータリー情報強調年間としたい』との方針なので、この方針が効果的に推進できるよう、委員会設置の主旨に従い、委任された本来の責務を遂行し、特に下記のことを実行したい。

- (1) 昨年度作成した、ロータリー情報提供システム・マニュアルの頒布・普及につとめ、これが、地区内各ロータリークラブで、如何に使用されているかの調査を通じ、必要な修正・改正の箇所を発見し、少しでも効果的なものにしていくための活動を行いたい。

即ち、昨年度、委員会においては、最大目的としたロータリー情報提供システム・マ

マニュアルの解説を、当年度のための地区協議会で行ったと言う点から考えても、本当の評価を受けながら、これを具体的に利用されるよう普及の努力をするのは、本年度委員会の使命であると考え、アンケートなどの方法で、利用度、不便さ、ミス、誤値などの調査を行い、修正を要する箇所について対処したい。

- (2) 上記、ロータリー情報システム・マニュアルを、補完するため、当初より、職業分類表の作成が計画されていたが、前年度委員会で、しかるべき資料の収集ができたので、これの編集完成に努力したい。

即ち、昨年度委員会においては、すでに、充填および未充填職業分類表作成に必要な資料が収集されているが、単なる職業の類型的羅列に止めるべきではないということ、及び激動する経済体制と業実性が乏しくなった今日の事業分類感に対応できるものであること、の2点に加え、職業分類と言うロータリー独特の考え方そのものに関する情報が、盛られたものでありたいとしてきた企画主旨を、今年度委員会委員に対しても充分理解して頂き、本年度、地区関係者の考えも合わせ、且つ、必要な索引、利用方法も考案して、年度後半初め頃を目安に発行したい。

- (3) 次年度開催が予定されている規定審議会に対し、地区内各クラブは、如何に対処すべきか、制定案、決議案の提出に関し、また、規定審議会そのものについても、必要な情報を提供すると共に、具体的提案を持つクラブで、希望があれば、関連する情報の調査に協力する活動を行いたい。

即ち、今年度は、『規定審議会が開催されるロータリー年度の前年度』にあたるので、規定審議会にむけての各クラブの意見を集約する準備を整え、この機会を通じて、規定の趣旨、意義の理解を深める活動をしたい。5月1日までに事務総長に送達されるべき、決議案、制定案について、地区内各クラブに対し必要な情報を提供するのは勿論、諸規定を身近なものとするなど、組織規定についても、説明ができるよう準備したい。

「ロータリーの友」

地区委員 伊藤 徳次郎 (吹田)

I. 「ロータリーの友」合同委員会

ロータリーの友委員会では、顧問、地区委員、常任委員会合同会議を奇数月の隔月に開催しており、今年度、第1回として東京で7月1日に新年度に当たっての基本方針、諸事項の検討及び決定がされます。また、9月・11月・1月・3月・5月に開催されます。

II. 「ロータリーの友」への出稿

地区委員として、「地区のたより」・「マイタウン・マイディストリクト」のページの編集を担当します。

1. 地区のたより

1988年3月号(12月18日締切)(地区からの投稿を期待します)

2. マイタウン・マイディストリクト

1987年11月号(9月14日締切), 1988年5月号(3月15日締切)

[掲載主要記事]

- | | |
|------------------|---------------------------|
| 1. 松本ガバナーの頁 11月号 | 2. ガバナー座談会 1988年1~6月迄順次掲載 |
| 3. 地区大会告知板 | 4. 地区大会略報(写真グラフ) |

「地区のたより」は4頁のスペースを使用します。内容は“地域あるいは地区”の珍らしい話題、わがクラブの自慢、珍談、奇談、迷説等、全国のロータリアンに紹介したいトピックなど地方の時代にふさわしい明るく楽しい内容の原稿で「自分の雑誌だなー」と思うものを期待しております。

III. 活動方針

ガバナーとロータリーの友委員との相互の意向伝達を大切にして、限られたスペースを活用してより愛される「ロータリーの友」でありたい。

職 業 奉 仕 部 門

担当パスト・ガバナー 中 村 俊 一 (東大阪)

職 業 奉 仕 委 員 会

委員長 常 持 敦 (寝屋川)

委員 三 宅 謙 伍 (大阪平野)

同 亀 井 節 治 (大阪西北)

同 吉 沢 和 夫 (東大阪)

同 大 西 淳 (大阪平野)

R. I. のチャールズ・C・ケラー会長は、世界全体を地域社会と考えねばならないような、新しい時代に当って、「職業奉仕にも新しい、そしてより機能的な意味を与えるように努めて下さい。地域社会のさまざまな職業分野に奉仕しましょう」と呼びかけています。

ロータリーの数々の奉仕活動の中には、その成果が「数えられるもの」と、「数えられないもの」の2種類があり、職業奉仕はその「数えられないもの」の代表のように考えられ勝ちです。新会長の「より機能的な意味」とは、「数えられるものを… というようにもとれますが、しかし、「私達の実業および専門職業に高度の倫理的水準と四つのテストを新たに確立したうえ…」と「数えられないもの」を前提としていることも認められます。

ロータリークラブが、成長をのぞむ一つの集団である以上、「数えられるもの」という具体的な活動成果が必要なことは理解出来ますが、特に我々の「職業奉仕」の場では、「心のクリーニング度」とか、「思いやり、いつくしみ、隣人愛の育成」などという、「数えられないもの」の方がより重要であり、それが前提となるのでなければ、「数えられるもの」のいかなる成果も、ほとんど意味はないということ、ロータリアンはしっかり再認識して欲しいと思います。

よって本年度本委員会は、各クラブ委員会及び会員に、次の各項をお奨めします。

- 1) ロータリーの「職業奉仕の理念」の歴史的な経過を、道徳律、標語、四つのテスト、ロータリーの綱領等の再検によって認識、原点から再スタートして下さい。
- 2) 先年、当委員会が作成した「事例集」の中から、興味ある1・2例をとりあげてケーススタディーや寸劇等により各自の資質の向上に活用して下さい。
- 3) R.I. 会長が提示した6つのメニューの中から、各クラブに「合ったもの」「出来そうなもの」をとりあげて、具体的な計画を立てて推進して下さい。
- 4) 「職業奉仕月間」をより効果的なものにするために、今からその準備を進め、卓話等については、当委員会を利用して下さい。
- 5) R.I. 会長の「機能的」という言葉には、他奉仕部門との連携活動も含まれているようです。特に国際・社会・青少年の各部門とは、計画作成前に充分打合わせしてクラブ全体のプラスを生み出して下さい。

～ MEMO ～

社会奉仕部門

担当パスト・ガバナー 中西 正二 (大阪西)

社会奉仕委員会

委員長	永野 啓之介 (豊中-大阪国際空港)
委員	浜田 実男 (高槻東)
同	寺井 種伯 (大阪天満橋)
同	三好 宏 (大阪平野)
同	新津 敬直 (大阪西)
同	小崎 正雄 (東大阪)
同	安川 隆三 (大阪南)
同	藤田 静男 (大阪北)

I. ボランティアの調査・発掘・支援

- (1) 気をつけてみると、我々の周囲には多くのボランティア活動に汗を流している人達があり、府下には700余のボランティアグループが、それぞれ地域に適合した奉仕活動を行っております。しかしながら、殊に都市型クラブに於ては、地域社会との接点が乏しく、ましてボランティアの活動を見逃がしている例も少なくない。そこで当委員会では過年度来、地域社会調査の重要性を示唆して参りました結果、過日のクラブ社会奉仕委員長会議を対象にしたアンケート調査によりますと、過半数のクラブで「ボランティア」に取り組む姿勢が示されており、更にビューローの設置(ボランティア協会の各分室)に関心を示しているクラブも数クラブあり、その成果が期待される。
- (2) 関西のちの電話、自殺防止センターに関しては、過日両センターを歴訪し、24時間奉仕のボランティアの人達とも面談、我々の気づかない場所で、日夜奉仕活動がされているご苦労を見聞するにつけ、早速に両センターの事業内容を示したパンフレットを委員長会議の席上全員に配布し、機会をつくりそうした人達をお招きし、卓話を

通じ一層の支援を推奨しました。

II. 高齢者問題

日本においては毎年急速に高齢化が進み、昨年度はまたまた平均寿命が男子 74.78 才、女子が 80.48 才 と高齢化が進み、1985年の国勢調査の時点で、総人口に占める老人の割合がすでに 10.3%であり、行政が急速な高齢化に追いつかず、その上行政の方針が、在宅老人介護が主たるものとなっている現状なので、RCでもボランティアの精神で側面より援助したい。

(1) 独居老人への友愛訪問

世界の福祉国といわれるスウェーデンでさえ、ほとんどの老人が毎日が日曜日で孤独に苦しんでいる。老人は特に対話を最も望んでいる。

(2) 都市型RCでは、上記の活動は実行が困難なので、テリトリー内の各区に設けられている老人福祉センターに、密接な接触をもち慰問器具の寄贈等。

(3) 健康な老人は、給料が減っても働きたいという意欲が旺盛なので、各企業における雇用促進を要望。

(4) 老人に対するボランティア活動マニュアルの交付。

(5) 健やかに老いるために、心と身体の各々7つの条件のパンフレット配布等。

III. 第4回身障児等白浜招待旅行

過去3回にわたり、地区社会奉仕委員会活動のイベントとして行われて来たこの業事については、毎年挙行後にガバナー、ガバナーノミニ、担当パストガバナー、地区社会奉仕委員及び本業事の実行委員の出席のもとに反省会を開催し、充分なる討議が行なわれ、一方では参加ロータリアンからのアンケート調査を行い、下記の如き結果を得た。

(1) 反省会では、実行段階で修正を要する問題点はあるが

1) 身障児への奉仕活動の実践を通して、ロータリアン各自が奉仕の精神を養うための自己啓発の実験業事として有意義である。

2) 地区におけるロータリー活動の、一般社会に対する適正なる広報活動の一助となる。

3) 参加することにより、各クラブ社会奉仕部門の直接的な意見交換の場として役立つプログラムである。

以上の点で大方の意見の一致をみた。

(2) アンケートの集計結果から

本行事に参加したロータリアンの意見

有意義：90.4% 特になし：7.7% 疑問視：1.9%

以上の結果をもとに、本年度も本招待旅行が実施されることに決定、地区社会奉仕委員会も地区協議会・社会奉仕部門に提案了承を得た。

(3) 但し、この種の広範囲かつ大規模なる活動は、地区の属する公的機関に委だね、ロータリークラブはこれを支援する立場であるのが本来の姿であり、すでに大阪府に対しては調査を依頼し、実行の促進を申し入れている。

(4) 本事業の大綱

1) 計 画 立 案： 実行委員会方式（I.G.F.各組から1名選出）による。

2) 規 模： 招待児 約120名 ボランティア 約60名
ロータリアン 約120名 計 300名

3) 予 算： 前年度に準ずる

1クラブ分担金 30,000円

加算分 会 員 1人 300円

参加ロータリアン 1人 20,000円

4) 実 行 時 期： 未 定

5) 招 待 場 所： 「ホテル川久」その他 1泊2日

6) 利用交通機関： 電車及びバス

7) 事 業 内 容： 実行委員会に一任

(5) なお5月16日、地区協議会において実行委員会メンバーがほぼ決定されました。

緑化推進委員会

委員長 圓井 東 一 (大阪北)
委員 谷口 尚 武 (大阪)
同 山本 研二郎 (大阪南)
同 妹尾 四 郎 (高槻東)
同 武田 宏 (大阪住之江)

I. 人間の生存にとって大切な緑が、いまや地球的規模で失われつつあるとき、昭和61年2月のR.I.規定審議会で日本のクラブ代表から出されて採択された「ロータリアンによる植樹と育樹を奨励する」決議案86-209号が、同年11月のR.I.理事会の決議で敷衍され、全ロータリークラブまたロータリアンが適当とみなす範囲内で、毎年1人10本以上の苗木を植え育てるよう、力を尽し努力することを奨励することになった。

他地区に率先して緑化推進委員会を設置した当地区としては、このことの意味を十分に認識し、努力するよう各ロータリークラブまたロータリアンに呼びかけて、緑化推進の主旨の徹底を図る。

II. 日本で最も古くから文化が開け、現在も日本の代表的な大都市地域であり、昭和65年には「国際花と緑の博覧会」が開かれる大阪を区域とする当地区では、緑の量が極端に少なくなっている。しかしながら植えることのできる公共の場所についての情報は乏しく、一般にはどうしてよいか分らないのが実情である。

そこで大阪府、大阪市の担当部局に依頼して具体的な資料の提供を受け、これをまとめて、去る3月24日に開催されたクラブ社会奉仕委員長会議の場で配布し、かつ説明した。また、昔からある鎮守の森や社寺の境内の樹林についても、同趣旨の説明をした。

なお、樹木の寄贈に代えて植栽工事や植栽後の管理といった労務の提供をすることは、当局側の意向もあって不可能である旨の説明をした。

このほかに、これまでも幾つかのロータリークラブが合同しての共同植樹の実例があり、また花木の植樹も含めた花一ぱい運動など各クラブの自主的な形の実践例も多い。

Ⅲ. 方針と計画

- (1) 地区緑化推進委員会としては、植樹についての以上の様々の方法は、あくまでも参考資料として提示または指摘したものであり、具体的にどうするかは、各クラブの自主性に俟つものである。要は冒頭の緑化推進の主旨が生かされればよいということを基本方針とする。(メニュー方式)
- (2) 高木または主景木(都市景観をよくする木)は、低木(価格が安い)を植樹したものとみなして、低木での本数に換算する。現金についても同様である。
- (3) 7月7日、クラブの緑化推進担当委員長会議を開催し趣旨の徹底を図った。更に必要に応じて随時同会議を計画した。
- (4) 各クラブの緑化推進の具体案は、8月末を目途に地区ガバナー事務所へ報告して貰うこととしたい。また明年6月のロータリー年度末には、各クラブの実績の報告を徴し、記録としてまとめたい。

青少年奉仕部門

担当パスト・ガバナー 世 戸 一 夫 (大阪難波)

アドバイザー 橋 本 憲 之 (大阪南)

青少年活動委員会

委員長 諏 訪 正 美 (枚 方)

委員 村 上 白 士 (大阪城北)

同 大 山 昭 夫 (大阪城南)

同 北 井 綜 一 (東大阪東)

同 山 田 寛 二 (豊中南)

同 津 田 宏 (門 真)

本年度青少年活動委員会活動計画案並びに本年度委員会行事としては、

- (1) 今初冬、11月21日～23日 能勢青少年野外活動センターにてのRYLA実施、
- (2) 来春、5月3日～5日 岬町淡輪 大阪府青少年海洋センターに於けるRYLAを予定しているが、

(1)については、豊中南RCをホストに準備を進めている。例年は9月の青少年月間にRYLAを行っているが、今年度は、9月に連休がないため、11月に開催するが、その気候に適したプログラムを考える予定である。

(2)については、門真RCをホストに決定しているので、よりよきRYLA研修を行いたく、検討・準備を進めている。

- (3) 大阪府青少年活動振興協会とは、RYLA通じて深い接触がある関係上、委員会を開催し、今後、更に相互の協力を進めていきたい。

- (4) 9月の青少年活動月間に備えて、クラブ青少年委員長会議で、各クラブの予定行事を把握し、事前に充実した計画をたてやすいように、便宜をはかりたい。

ローターアクト委員会

委員長 目 幸 等 僊 (大阪天満橋)

委員 飯 原 弘 章 (大阪住吉)

同 辻 吉 和 (八尾東)

同 大 西 晃 夫 (守 口)

同 神 戸 昭 典 (寝 屋 川)

同 堀 岡 晃 (枚 方)

I. 当地区内のRACは各提唱クラブの深い理解と協力により、19クラブを数えるに至り、今期も20クラブを超えることを目標に努力したい。従って本委員会は地区内のRACの指導、育成、教化は勿論、新RAC提唱に際しての援助及び地区青少年活動委員会の基本方針に協力すると共に、在来のRACの活性化、奉仕活動の活発化に要求される会員増強については、特に提唱クラブの積極的協力を求めたい。

II. 本年度の地区RACのターゲットを“君の出来得ることをせよ”とし、従来のよき伝統と慣行を踏まえつつ、漸新な活動計画のもと、新鮮なプログラムを推進するよう、公式、ゾーン、合同各行事等に積極的参加を勧め、且つ提唱クラブとの連繫をより密にして、RAC諸活動にロータリアンの参加を呼びかけ、RACメンバーに親密感・信頼感を与えられるよう要請したい。

III. 奉仕活動として、

- (1) 地区米山奨学委員会と合同して、留学生との交流、会合、奉仕活動を考える。
- (2) 地区社会奉仕委員会の奉仕活動に参加協力する。
- (3) 未提唱クラブに提唱を要請し、要望があればRACに関する卓話サービス等を実行し、年度内に2～3RACを拡大したい。
- (4) 会員増強策として、1ACに対するPR、ライラ参加者への入会呼びかけ
- (5) 前年度作成の会員増強パンフレットを増刷し、効果的に未提唱クラブに配布宣伝し

たい。

IV. 当年度の主たる行事としては、

- (1) オーストラリアRAC(第960地区)との相互交流に彼我6名宛の親善滞在に関し、特別委員会を設け、万全を期して計画通り実施する。
- (2) 英国にて開催のインターローターへ3名のRACを派遣する。

1987～'88年度

地区ローターアクト役員

地区代表	目幸秀子(大阪天満橋)
北大阪ゾーン代理	梶谷洋一(高槻)
大阪ゾーン代理	前田要之助(大阪北)
地区幹事	原内陽伸(寝屋川)
地区副幹事	大城戸弘(大阪西)
地区会計	小林宏之(大阪住吉)

地区内RAC一覧表

北大阪ゾーン (7RAC)	池田RAC, 茨木RAC, 高槻RAC, 守口RAC, 寝屋川RAC, 枚方RAC, 吹田RAC
大阪ゾーン (12RAC)	大阪RAC, 大阪東RAC, 大阪西RAC, 大阪南RAC, 大阪北RAC, 大阪西南RAC, 大阪天満橋RAC, 大阪住吉RAC, 大阪淀川RAC, 大阪平野RAC, 八尾東RAC, 東大阪RAC

1987～1988年度 年間行事予定

開催日	行 事	主催・ホスト
87年 7月 5日	地区合同連絡協議会 ・第1回リーダーシップフォーラム	寝屋川RAC
5日	海外親善交換 オーストラリア第960地区より8名受入 7/5～24	地 区
7月26日	海外研修参加者オリエンテーション	地 区
8月 3日	海外研修 8/3～9	地 区
30日	前期総合会長会	大阪北RAC
9月13日	全国統一RACの日及び 米山奨学生との交換会	大阪淀川RAC
9月21日	海外親善交換 第960地区 7名派遣 9/21～10/12	
10月31日	海外研修解団式 海外親善交換解団式	地 区
11月29日	新人オリエンテーション	大阪西南RAC
12月 日	身障児白浜招待旅行 (女子15名・男5名)	RC
88年 1月24日	第2回リーダーシップフォーラム 及び後期総合会長会	大阪西RAC
4月 3日	地区大運動会	東大阪RAC
4月24日	新旧会長幹事会	大阪南RAC
4月8・9日	地区大会	地 区
5月15日	RAC地区年次大会(OR 8日)	大阪天満橋RAC
5月28日	新旧奉仕委員長会議	高 槻RAC
6月11日	新旧会長会	吹 田RAC

ローターアクトのターゲット

Do what you can ✓

RAC spirit

We can

君の出来得ることをせよ

インターアクト委員会活動

委員長 二宮正彦（大阪南）

委員 平岡龍人（大阪）

同 的場勝弥（大阪うつほ）

同 仲野欣弥（大阪阪南）

同 重村泰弘（大阪南西）

同 藤井則郎（大東）

同 朝倉一良（大阪城南）

I. 本年度の活動計画は、おおむね前年度の活動方針を継承しながら、さらに活動の主体となる IAC 加盟 6 校学生の共同の奉仕活動を充実させていくことである。それには、加盟校の学生・顧問の先生と各ロータリアンとの連繫をさらに強化し、各校の実情に即した奉仕活動を推進することにより、加盟校の輪を 1 校でも増加させることを念願している。

本年度の活動計画の基本としては

- (1) 各種のボランティア活動への参加
- (2) 都市緑化祭への協力
- (3) 海外研修の実施

(4) I A C加盟校設立推進

などが挙げられる。

II. ボランティア活動としては、前年度の「車いすガイドマップ」作成が続行されるものと思われる。また、本年度のハワイでの海外研修は、3日間のホームステイを計画している。この計画は前年度のホームビジットに比して、参加高校生の国際的な奉仕、親善活動への体験を、さらに充実させるべく計画されたものであり、その成果が期待されよう。

III. I A C加盟校の増加については数校が候補に挙げられており、その実現への努力をつみかさねて行きたい。

1987～'88年度 年間行事予定

活 動 項 目	実 施 日	実 施 場 所
リーダーシップフォーラム（次年度計画）	6月20日（土曜日）	清風高校
海外研修オリエンテーション	7月18日（土曜日）	清風高校
海外研修オリエンテーション	7月25日（土曜日）	清風高校
海外研修下見	7月下旬	ハ ワ イ
海外研修オリエンテーション	8月 1日（土曜日）	清風高校
海外研修（4泊6日）	8月23日～28日	ハ ワ イ
海外研修反省会	9月12日（土曜日）	清風高校
顧問会（年次大会準備）	10月 3日（土曜日）	清風高校
年次大会	11月 8日（日曜日）	未 定
リーダーシップフォーラム	1988年 5月28日（土曜日）	未 定
新入生歓迎会	5月29日（日曜日）	未 定
その他	海外研修旅行報告書作成・年次大会報告書作成・スクラム編集刊行	

国際奉仕部門

担当パスト・ガバナー 戸田 孝 (八尾)

世界社会奉仕委員会

委員長 宮田 宏章 (大阪北)
委員 喜井 晴夫 (守口)
同 堀内 顕 (八尾東)
同 山本 康隆 (大阪難波)
同 本田 次男 (大阪北)
同 吉田 敬三 (大阪)

当委員会は、RI会長方針を遵守して各RCが、より効率的で実り多いWCS活動を推進することができるように支援する。

I. 方針

1. 松本ガバナーの方針に基づいて、クラブ・レベルのプロジェクトを意欲的に推進し、クラブ・プロジェクトの増大を計り、地区レベルのプロジェクトは差し控える。
2. 様々な事情からクラブ・レベルのプロジェクトを推進することが困難なクラブに対して、地区委員会として支援計画を推進する。

II. 計画

1. クラブ・レベルのWCS活動の実情を把握するために、アンケートを早期に回収してまとめ、クラブ・レベルのWCS活動の活性化を計る。
2. 『WCSプロジェクト交換データ』をはじめ各方面にわたって交換可能なプロジェクトを調査し、その情報を各クラブに伝達し地区計画を立案する。

3. 前年度委員会の申し送り事項のプロジェクト（インドの deaf project = 登録No. 2136 とブラジルのペロホリゾンテのプロジェクト等）を調査し実施計画を推進する。
4. 守口RCのネグロス島への医療奉仕の継続プロジェクトに対しては、地区としての派遣は実施しないが、側面的な支援と協力を行なう。

青少年交換委員会

委員長	入江和夫（高槻）
委員	中西清雄（摂津）
同	平尾力（豊中）
同	中一皓（枚方くずは）
同	海堀常雄（大阪西南）
同	松本雅晴（大東）
同	田中健次（東大阪）

I. 主なる年間活動

- 派遣及び受け入れ交換学生オリエンテーション開催。
- 交換学生歓送迎会、交換パーティなどの開催。
- ホストクラブ、ホストファミリーのオリエンテーション開催。
- レックス、ミーティングの援助協力。
- 交換学生受け入れ、派遣見送り、出迎え。
- 国内、国外の交換学生派遣、受け入れに関する接渉。
- 交換学生等の感想文の発行並びに、ホストクラブ、ホストファミリーへの感謝状作成、その他。

II. 青少年交換計画と交換ファンド

青少年交換は、交換学生が国際理解、国際親善を目的として、国際奉仕の直接的積極

的な奉仕活動を行なうことであると考えられるが、その蔭で奉仕をされる人々には心から感謝したい。

今年度（1987年度～1988年度）長期派遣の学生は10名である。また国外からは10名の学生を受け入れる予定である。なお8月には1986年度～1987年度の日本人学生が4名帰国することになっている。（別表に示す）

青少年交換は、ロータリアンの子弟が参加できるプログラムであり、ロータリアンの奉仕による多大の援助で成立するものであるから、ロータリアンの子弟の積極的な参加を求めたいと思う。

前年度に引き続いて、交換ファンドのために地区全会員から年間2,000円の拠出金を戴き、それを交換計画実施経費、交換学生ホストクラブ及び交換学生に対する援助費に当てることとしたい。（長期・短期交換に対して）

レックス（交換学生OB、OG会）の活動がその機能を充実していくよう援助し、又レックスには来日及び派遣交換学生のオリエンテーションなどに対して、各自の体験を生かし、具体的な奉仕を求めたい。

毎年度、新たに青少年交換に参加するクラブを見出し、4～5年に一度は各クラブが青少年交換を実施されるよう求めたい。またクラブ単位の青少年交換についても、情報を集め、出来る限りの援助をしたいと考える。なお実行に困難を伴うかもしれないが、身体障害者の青少年交換についても考慮したい。

今年度は、従来の長期交換地区である米国・カナダの諸地区以外に、インド（D-315）、西ドイツ（D-184）、オランダ（D-156）、スイス（D-199・200）、ブラジル（D-462）、メキシコ（D-411）、イタリア（D-210）、英国・R.I.B.I.（D-101～127）等の諸地区との長期、短期交換を行なう予定である。言葉の問題もあるので、交換用語は総べて英語を用いることとする。

募集人数：長期交換学生 8名 補助金：年間1人100万円

短期交換は各クラブで行なって頂くこととする。

Ⅲ. 交換学生の状況

(1) 派遣学生

① 1986年8月～1987年8月帰国

濱田郁代(女)	大阪東南	D540	米アイダホ
林牧(女)	大阪城北	エセックス	米東部諸州
渡辺紀生(男)	大阪淀川	セントラル	米中部諸州
前田晶子(女)	大阪住吉	セントラル	米中部諸州

② 1987年3月～1988年3月まで派遣

松村真由美(女)

ホスト：PARRYSOUND R.C Ontario, D701(加)

スポンサー：東大阪R.C

片山三千太(男)

ホスト：GRAVENHURST R.C Ontario, D701(加)

スポンサー：枚方くずはR.C

芦谷恭子(女)

ホスト：SHELBURNE R.C Ontario, D707(加)

スポンサー：守口R.C

③ 1987年8月～1988年7月まで派遣

松本宙治(男)

ホスト：LOCKPORT R.C セントラル ILLINOIS, D645(米)

スポンサー：大東R.C

岩崎明子(女)

ホスト：GRIMSBY R.C Ontario New York D709(米)

スポンサー：大東R.C

山本敢哉(男)

ホスト：BLOOMINGTON NORTH R.C セントラル

Indiana D658(米)

スポンサー：大阪うつぼR.C

高野 准 幸(男)

ホ ス ト：WAYNESBURG エセックス Pennsylvania, D733 (米)

スポンサー：大阪阿倍野 R.C

鶴 元 進 一(男)

ホ ス ト：MINNEAPOLIS R.C Minnesota, D595 (米)

スポンサー：摂 津 R.C

海 堀 麻 子(女)

ホ ス ト：TWINFALLS R.C Idaho, D540 (米)

スポンサー：大阪西南 R.C

奥 村 哲 子(女)

ホ ス ト：未 着 , D510 (米)

スポンサー：大 東 R.C

(2) 受け入れ学生

① 1986年8月～1987年7月まで在日

Kris Annekuhleneier (女) 16才 ホスト：交野

スポンサー：R.C. of Freeport Illinois D642 (米)

Michael David Conte (男) 17才 ホスト：摂津

スポンサー：R.C. of Campbellford D701 (加)

Jonathan Brett Baker (男) 16才 ホスト：大阪住吉

スポンサー：R.C. of East Salem D510 (米)

Jonathan Roy Martinek (男) 16才 ホスト：大阪城北

スポンサー：R.C. of Hackensack Nj D749 (米)

Tina Louise Leslie (女) 18才 ホスト：大阪城南

スポンサー：R.C. of Peterborough D701 (加)

Michael Edward Black (男) 16才 ホスト：大阪なにわ

スポンサー：R.C. of Asax D707 (加)

Liberty John Miller (男) 16才 ホスト：大阪なにわ
 スポンサー：R.C. of Minneapolis City of Lakes D595 (米)

Bryan Gregory Tracy (男) 15才 ホスト：大阪淀川
 スポンサー：R.C. of Marion Wisconsin D622 (米)

Traci Michele Wade (女) 15才 ホスト：大阪難波
 スポンサー：R.C. of Wallowa County D510 (米)

Mary Malinda Whitenack (女) 16才 ホスト：大阪東南
 スポンサー：R.C. of Pocatello D540 (米)

② 1987年8月～1988年7月まで在日

STURTZ Cindi Lou (女) ホスト：大阪西南
 スポンサー：R.C. of Twin Folls, Idaho, D540 (米)

Perkins Christopher Alan (男) ホスト：枚方くずは
 スポンサー：R.C. of Elliot Lake, Ontario, Canada D701 (加)

Marcil Shawn Philippe (男) ホスト：守口
 スポンサー：R.C. of Brampton, Ontario, Canada D707 (加)

Gibbons Stacy Renee (女) ホスト：大東
 スポンサー：R.C. of Owosso, Michigan D631 (U.S.A. セントラル)

Niccun Eric Charles (男) ホスト：大阪うつば
 スポンサー：R.C. of Rushville, Indiana D656 (U.S.A. セントラル)

Cunningham Caroline Atlee (女) ホスト：摂津
 スポンサー：R.C. of Minneapolis, Minnesota D595 (U.S.A.)

Kay William Morris (男) ホスト：大阪阿倍野
 スポンサー：R.C. of Bethlehem, Pennsylvania D743 (U.S.A. エセックス)

Scott Stephen Louglas (男) ホスト：東大阪
 スポンサー：R.C. of Peterborough, Ontario, Canada D701 (加)

Jones Jackie Lynn (女) ホスト：大東
 スポンサー：R.C. of Wood burn, Oregon D510 (U.S.A.)

以上の他に更に1名追加されるが、5月1日現在書類が未着。

米山奨学委員会

委員長	中川藤一	(大阪西)
委員	木梨正夫	(東大阪中)
同	小杉三朗	(豊中)
同	島津 陟	(大阪難波)
同	三好正三	(大阪大手前)
同	重光世洋	(大東)

I. 募金目標

当地区の前年度寄付実績は低調であったが、本年度目標額は前年度並の1人当たり1万5千円、地区総額6,800万円程度とする。

(1) 普通寄付

前年度普通寄付は、クラブにより1人当たり2,000円～8,000円で、地区内平均約4,000円であるが、4,000円以下のクラブに対しては増額方を願う。

(2) 特別寄付

米山功労者、準功労者並びに新設の米山功労法人、米山特別功労法人の申込を積極的に勧める。会員1人当たり寄付額が地区目標額より低いクラブに対しては、機会のある毎に特別寄付を願う。

II. 奨学生の援護活動

米山記念奨学会の主旨に沿って、奨学生の世話クラブ、ロータリアンの援護活動には感謝の外はない。

- (1) 奨学生の余暇を選んで、レクリエーション、遠足を勧める。
- (2) 地区ローターアクト委員会と連繋して、奨学生のローターアクト活動参加を勧める。
- (3) RYLAへの参加を奨励する。
- (4) 在日元奨学生による米山奨学生学友会(関西)が組織されたので、この健全育成をはかるとともに、奨学生を交えた懇親の機会を持つ。

- (5) 各大学毎に奨学生の世話役を設ける。

Ⅲ. 奨学生を通じた国際交流

- (1) 奨学生による母国ロータリークラブとの文通を勧め、ロータリーの意義を認識させるとともに、国際交流の機会を増す。
- (2) 世話クラブは勿論、それ以外のクラブに対しても卓話等を通じて奨学生との接触を深めることを勧める。

Ⅳ. 米山奨学事業のPR

- (1) 米山月間等の機会を利用し、地区委員、奨学生、学友会員等により卓話を行い、米山事業のPRにつとめる。
- (2) I.G.F.を利用し、地区委員が手分けして米山事業のPRを行う。

Ⅴ. 奨学生の募集

奨学金受給希望者は年々増加しているが、各大学及びクラブに依頼して新規応募者の増加を進める。

国際交流委員会

委員長 稲本 晃 (大阪東)

委員 野村 浩司 (大阪港)

同 嘉納 尚 (大阪西)

同 葛原 忠知 (大阪梅田)

同 松本 一夫 (大阪駅)

同 浅桐 紀元 (大阪大手前)

- (1) 1987～1988年度の国際大会は1988年5月22日～25日の間フィラデルフィア市

で開催の予定である。当地区より多数の会員と家族の参加をあらゆる機会に各クラブに要請する。

- (2) 1987年10月12～15日の間アジア地域大会がインドのニューデリー市で開かれる予定である。目下のところ情報は少いが入手次第直ちに広報して勧誘につとめる。
- (3) シスタークラブ、フレンドクラブ等クラブ間交流の現況を調査するため、各クラブに調査表を配り、集計後一覧表を作成、ガバナー月信に掲載する。
- (4) その他当委員会に属する通知、伝達事項についてはガバナー月信に掲載する。

～ MEMO ～

ロータリー財団部門

担当パスト・ガバナー 種 田 憲 次 (大阪住吉)

ロータリー財団委員会

委員長 種 田 憲 次 (大阪住吉)

委 員 白羽 弥右衛門 (大阪阿倍野)

同 木 村 英 一 (大阪住吉)

同 大 社 照 史 (大阪淀川)

同 中 田 康 仁 (大阪南)

同 山 中 文 和 (大阪南)

ロータリー財団委員会の責務

- (1) 地区内の財団プログラムを成功させるように、地区ガバナーを援助する。
- (2) 小委員会活動の調整。
- (3) クラブより推薦された大学職員のための補助金申請者と面接し、2名以内の最終候補者の指名をロータリー財団管理委員会へ提出する。
- (4) ロータリー財団への絶えざる財政的支援を奨励する。
- (5) ロータリー財団月間に各ロータリークラブが積極的に参加するように促進する。
- (6) 設置していない小委員会(特別補助金、3Hプログラム、財団情報)の仕事を執り行う。

財 団 奨 学 金 委 員 会

委員長 白羽 弥右衛門 (大阪阿倍野)

委員 名 張 隆 政 (吹 田)

同 高 士 修 (守 口)

同 大 川 進一郎 (大 東)

同 森 川 晃 卿 (大阪住吉)

同 阿 部 裕 (大 阪)

同 塩 川 二 朗 (千 里)

同 西 田 陽 一 (茨 木)

I. 1988 ~ '89 年度奨学金の第 266 地区割当数は 16 人 (前年同様) で、その申請手続提出締切並びに選考は、下記のとおり実施。

(1) 各ロータリークラブにおける申請書受付開始 (完成書類は逐次ガバナー事務所へ送致) 6 月 1 日 (月)

(2) 各ロータリークラブにおける申請書の受付締切 7 月 3 日 (金)

(3) ガバナー事務所における締切 7 月 25 日 (土)

(4) 第 1 次選考試験 8 月 1 日 (土) 大阪 YMCA 会館 9 F
受付 9:00 ~ 9:45 締切 試験開始 10:00 ~ 16:30

(5) 第 2 次選考試験 8 月 15 日 (土) 大阪 YMCA 会館 9 F
9:00 ~ 15:00

(6) ロータリー財団管理委員会における申請書最終締切 10 月 1 日 (木)

(7) 候補者本人並びに地区ガバナー宛に、財団管理委員会から来る奨学金受領最終決定者名の通知到着見込 1987 年 12 月 15 日 (火) の予定。

II. ロータリー財団国際平和奨学金 新規プログラム

本年 3 月 3 日到着した奨学金プログラム委員 S. A. Schreier の書翰によれば、世界平和を研究する奨学金課程として、『国際平和奨学金』が発足したことが報じられてい

る。これによれば、世界中の6地域からそれぞれ1人ずつ競争制で奨学金をうけることができ、受領者は英国西ヨークシャー州、ブラッドフォード市にある University of Bradford School of Peace Studiesにおいて、平和問題および紛争解決に関連した研究に従事することができるようになった。即ち財団奨学金申請資格をもつ全候補者がこれに応募することができる。この新規プログラムについては、去る4月18日(土)に行われた新旧合同地区委員長会議における当委員会活動報告(31~33頁)では、本年度の実施は困難の旨報告したが、その後、本年度における募集が決定した。ついては、「世界平和奨学金」の申請を6月1日付地区内各クラブ会長及びロータリー財団委員長宛に通知し、積極的に申請選出されるよう連絡した。

研究グループ交換委員会

委員長 木村英一(大阪住吉)

委員 木川稔(摂津)

同 東平介(寝屋川)

同 村上実(池田)

同 細江重(大阪東淀)

同 伊地智善継(大阪南)

同 銭谷力(摂津)

同 増田鼎(八尾)

同 山川真(大阪住吉)

同 古田敬三(大阪)

委員会活動計画

1987~'88年度は、G.S.E. チームの派遣および受入れを実施しないが、次年度デンマーク R. I. 第144地区との研究グループ交換補助金申請に必要な手続きを行なう。

R. I. 第144地区 G.S.E. 委員会と緊密な連絡をとり、男性チームか女性チームか、チ

ームの訪問期間、訪問時期等打合せの上、8月下旬開催予定の地区ロータリー財団委員会に報告する。

地区ロータリー財団委員会より、次年度研究グループ交換申請の承認を得た後、チーム・リーダー（地区ガバナー代理）の選考を行う。

相手地区G.S.E.小委員会と具体的実施計画決定後、速かに、チーム・メンバーの募集・選考を開始する。

財 団 増 進 委 員 会

委員長 大 社 照 史（大阪淀川）

委員 芝 哲 夫（豊 中）

同 青 野 明（交 野）

同 田 中 純 吉（八 尾）

同 濱 田 新（大阪うつぼ）

I. 活 動 方 針

- (1) 地区ロータリー財団委員長（担当パスト・ガバナー）を中心として、ロータリー財団関係委員会と緊密な連携をとり、人間関係を大切に運営する。
- (2) ロータリー財団の意義・活動をPRし、財団の事業計画を金銭面で支持する必要性について認識を喚起する。
- (3) 本年もポリオ・プラス計画の募金と並行して行われるので、新設の地区ポリオ・プラス委員会と協調して、当地区本来のロータリー財団活動の上にひずみの生じないような募金活動を行う。
- (4) 本年度無条件寄付額を1人当たり15,000円以上と設定し、前年度以上の実績を期す。

II. 活 動 計 画

- (1) 地区増進委員会を適時開催し、RIに正式に登録された成績を調査検討し、適時情

報を流して増進を依頼する。また「ガバナー月信」に適時その成績を発表する。

- (2) 9月5日(土)に開催される各クラブ財団委員長会議の際、その委員長等地区財団関係者との連絡を密にして、財団増進活動の円滑な推進を図る。
- (3) 11月の財団月間は、各クラブロータリー月間にふさわしい行事の実施をお願いする。(財団学友委員会と共同で財団学友卓話をあつ旋するとか……ロータリー財団月間にちなんだ卓話を披露するなどの)
- (4) 特に新クラブ結成時や新入会員に対しては、十分インフォメーションを与えて、ポールハリスフェローや準ポールハリスフェローになるよう勧誘し、また、準ポールハリスフェロー後の寄付の継続をお願いする。

財 団 学 友 委 員 会

委員長	中 田 康 仁 (大 阪 南)
委員	田 中 穰 二 (大 阪 西 南)
同	仲 芳 樹 (吹 田)
同	田 川 弘 雄 (箕 面)
同	木 本 武 雄 (大 阪 北)

当委員会の本年度活動方針は、基本的には過去の委員会活動を踏襲する。

I. 当委員会の任務は、帰国奨学生および研究グループ交換(G.S.E.)参加者のアフターケアにあるが、その中で活動の基幹資料として果たすべき学友名簿の作成配布事業は、とりわけ重要である。過去、委員会の努力によって、年々整備されては来たが、依然として消息を捕捉し得ないでいる学友を、関係者の情報提供の協力を得て、更に充実を図りたいと考えている。

II. 当委員会の主任務である学友の親睦・育成活動は、現実的には、P S C (学友有志に

よる親睦クラブ)への援助育成と主軸を一にする。これの最大の課題は、財団奨学生とのG.S.E.参加者の、夫々異ったプログラム参加者の融合である。仮に財団奨学生を縦糸とするならば、G.S.E.参加者は横糸であり、これの結合には、一工夫を要するところである。学友有志による任意組織であるP S Cの再編成について、一石を投じたいと考えている。

P S Cの拡充を図ることによってP S Cの活性化を図り、彼ら組織の自主性を高めることによって、ひいては学友会活動への参加意識を昂揚したいと考える。

III. 委員会活動は単独で目的成果を達せられるものではなく、他の委員会活動と連携してこそ、より大きな成果を挙げ得るものである。とりわけ、当委員会は、財団奨学金委員会、研究グループ交換委員会と連携を密にとり、両委員会のプログラムに沿って、オリエンテーションへの学友の参加協力を推奨する。ロータリー財団月間等の卓話にも、要請があれば積極的に学友を斡旋するなど、それらの機会を通じて、学友を再度ロータリーの奉仕活動の輪に取りこみ、学友とロータリーの絆を再確認させる教育の場として提供したい。奨学生、G.S.E.参加者にとって、彼らの留学、研修の貴重な体験が、単に一過性のものでなく、将来に亘って、ロータリー精神の発揚につながることを期待するからである。

ポリオ・プラス委員会

委員長 山 中 文 和 (大 阪 南)

委 員 三 好 三 郎 丸 (大阪天満橋)

同 阪 口 勇 (大阪柏原)

同 吉 田 三 七 雄 (大 阪 南)

我々委員会の第一の目的はこの新しい、しかしながらロータリーの史上はじめての最大のプログラムと云われている“ポリオプラス計画の目的とその概要”を、当地区の全メン

バーに出来得る限りのご理解頂けるようにとのキャンペーンを行うことと思います。

日本、香港、台湾、韓国のインターナショナルコーディネーターをされている東京麹町ロータリークラブの山田彝氏がインドへ行かれた時に、夜中真暗闇の中で両手両足の動かない青年が、まるでイモ虫の如くクネクネと地べたをはいづり回って食物をあさっている姿を見て、しかも小児マヒにかかることは前生からの因縁と言われ、日中は目にふれることを忌みきらわれているため、夜になってしか食物あさが出来ないという極限と言うべき、悲惨さの状態を目の前に見て全身が寒くなったとのこと。

その時以来この撲滅を決意し、自らインターナショナルコーディネーターになられたと言う話を戸田PDGから承りましたが、このような話をまじえて全ロータリアンの感性にもらったえて、何とかせねばならぬと言う思いを想起する必要があります。

I. プロジェクトの目標と概要

1. ポリオマイアレイティスは、現在でも年間26万5千人の乳幼児がかかっており、その5%から10%が死亡し、麻痺の起った乳幼児のうち約15%は完全に回復しますが、残りの乳幼児は身障者として一生を送らなければならなくなっています。
2. 更にポリオ、ハシカ、破傷風、百日咳、ジフテリア、結核をあわせると年間推定約345万人が死亡しています。子供たちにこれら6種のワクチンの接種をすることを拡大接種計画といいます。
3. ロータリーは1985年、その創立100周年に当る2005年までに全世界よりポリオの被害者をなくすように、それに必要なワクチンの購入費用1億2千万ドルを募金しようと全世界のロータリアンに呼びかけました。これがポリオ2005年とよばれる計画です。

II. 日本とポリオ

昭和35年に北海道で5,600名、翌36年には九州で2,500名の幼児がポリオにかかりました。その後、経口生ワクチン(セービン・ワクチン)の投与により昭和58年以後は、わが国ではポリオの発生がごくわずかであり、ほとんどなくなっています。

Ⅲ．日本における募金活動

1. 日本ポリオ・プラス委員会は、全世界のロータリーの目標額1億2千万ドルの約2割強に当たる40億円が、わが国全クラブの総目標額として適当であると判断しました。

2. 第一段階の募金計画

昭和61年7月、日本委員会は、1986～'87年度各地区ガバナーに募金第一段階として次のように要請しました。

募金目標：各クラブ所属ロータリアン1名当り平均が2万円を下廻らぬようお願いいたします。

募金期間：1986～'87年度より1990～'91年度の5年以内とします。

(但し当地区は5千円、4年で2万円になっている)

募金方法：各地区ガバナーおよび各クラブ会長に一任します。

3. 第二段階の募金計画についてお願い

わが国としての募金目標40億円の半分の20億円は、当初、財界その他の団体からの大口法人寄付を期待していましたが、急激な円高による経済界の低迷により、計画を変更せざるを得なくなっております。そこで当委員会としては、1987～'88年度ガバナーのご了解を得て、第二段階についても各クラブの全会員に対し、その所属される法人又はその地域における法人を中心として、会員1人当り平均2万円を下廻らぬような募金を開始して頂くよう、懇請せざるを得ない情勢となっております。

期間はやはり1986年～'91年の5年間とします。勿論、募金の方法は各地区、各クラブの自主性におまかせしますが、ご参考までに下記募金方法が行われていることを、ご高覧に供したいと思います。

- ① 会員関係、又は知り合いの会社、団体及び個人よりの寄付
- ② 創立記念事業として
- ③ 街頭募金
- ④ 記念テレフォンカードの購入・販売
- ⑤ クラブ主催諸行事余剰金の寄付
- ⑥ ミリオンダラー・ミール

Ⅳ. 送金と免税措置・PHFなど

1. ロータリーとユニセフとの取りきめにより、ポリオ・プラスに対する寄付は、日本ユニセフ協会に寄付をするということによって、法人寄付および個人寄付（ポールハリス フェロー寄付も含む）に限り金額を問わず（クラブ名義、地区名義などの寄付は対象になりません）免税措置をうけることができるようになりました。

当初 1,000 ドル以上となっていたその制限はなくなりましたが、税法上の免税は年間（1月～12月）の寄付額が、1万円以上の場合のみとなっています。

2. 送金について（クラブ幹事および事務局の方へ）

送金は、従来のロータリー財団寄付と同様、クラブでまとめて行って下さい。

- ① 免税適用寄付の場合

振込口座 三井銀行本店 普通預金 No. 5678970

（財）日本ユニセフ協会国際ロータリーポリオ・プラス

同時にピンク色の振込連絡票（A）を下記国際ロータリー日本支局財務室に送付して下さい。

〒160 東京都新宿区1-36-12

サンカテリーナ 1階

- ② 免税非対象寄付の場合

振込口座 三井銀行本店 普通預金 No. 0968049

国際ロータリー財務長代理 吉井 陸

同時に黄色の振込連絡票（B）を下記国際ロータリー日本支局財務室に送付して下さい。

※各クラブで用紙を申込んで下さい。

3. ポールハリス フェロー及びポールハリス準フェローについて

ポリオ・プラスへのロータリアン個人名での寄付額は免税対象、非対象を問わず、従来のロータリー財団一般寄付額と合算され、ポールハリス フェロー、ポールハリス準フェローの対象となります。

4. 財団奨学生割当人数について

ポリオ・プラスへの寄付額はその地区により推薦できる奨学生の人数をきめる上に

は算入されません。(この点だけポリオ・プラスへの寄付はちがうのです)

奨学生割当人数はポリオ・プラス以外の財団への一般寄付 21,000 ドル 当り 1 人で計算され、それに基準割当の各地区 1 人分が加えられます。

V. ポリオ・プラス月間

日本では本年より 1990 年まで毎年 3 月を“ポリオ・プラス月間”とすることに決まりました。(RI は募金期間の関係から 1987 年と 1988 年の 3 月としています)

VI. ローターアクトクラブとインターアクトクラブの活動の中に、このポリオ・プラス計をおりこんで下さい。

VII. 地区資金の残金の中で、今年度は各会員一人当り 2 千円の払戻しをして、ポリオ関係寄付に使うこととします。

～ MEMO ～

拡 大 部 門

担当パストガバナー 伊 瀬 芳 吉 (池 田)

拡 大 委 員 会

拡 大 委 員 長 北 野 清 (大阪城南)
拡 大 カ ウ ン セ ラ ー

拡 大 カ ウ ン セ ラ ー 三 好 誠 一 (高 槻)

同 高 林 辰 行 (大阪城北)

拡 大 委 員 田 代 通 (守 口)

同 藤 木 哲 雄 (寝 屋 川)

同 森 藤 憲 一 (大阪城北)

(1) 1986～'87年度は、大阪西北RCのクラブ挙げての尽力で、前期末の6月15日、大阪堂島RCの創立をみる事ができた。

なお昨年末、地区内に於いて拡大可能と思われる下記クラブには、担当パスト・ガバナーに同行、クラブ拡大委員会の設立等を懇請した。

高槻RC、寝屋川RC、守口RC、大阪心斎橋RC、大阪城北RC、大阪梅田RC

(2) 高槻、寝屋川、守口各RCには、理事会に出席、拡大を懇請しているが、何れも大阪市のベッド・タウンたる性格が濃厚なるため、人材は概ね大阪市内クラブに入会済みの例多く、地域としてのクラブ結成には困難な要素を含んでいる。寝屋川市の如き人口26万人余を数えるが、如上の理由で新クラブ結成には大きな困難が伴うであろう。

しかしながら上記3都市を含み大阪府下北部並びに東北部の周辺都市は益々活性を帯び、発展著しい地域であり、既設クラブに対しアディショナル・クラブ設立の労をとられんことをさらに懇請していくことにしたい。

(3) 大阪心斎橋RCは1989～'90年に創立20周年を迎えるため、その記念事業の一環としてアディショナル・クラブ結成の計画を進められるかと思推され、大阪城北、大阪

梅田 RC は共に本年度が創立 10 周年に当たるため、ロータリー拡大の決定を懇請している。目下のところ共に前向きに考慮されると思われる。

～MEMO～

(東 京 大) 青 内 首 委員委

(田 中) 高 森 千 金 員 委

(東 京 大) 一 宮 川 吉 員

(東 京 大) 青 田 村 情 会

財 務 委 員 会

委員長 竹 内 貢（大阪東）
委員 金 子 義 高（吹 田）
同 吉 川 秀 一（大 阪）
会 計 袴 田 哲（大阪東）

今年度予算の編成に当っては、既往各年度、各科目毎の予算と実績を分析検討し、事前準備を行った上、本年度の活動方針および地区各委員会の要望に従い、50頁掲載の第266地区今年度の「収支予算書」を策定し、過般開催された地区協議会・会長部門に提示、承認を得ました。

I. 「収入の部」の「地区資金」については、地区ロータリアンの総数を、前年比150人増と見積り2,250千円の増収、また「RI交付金」については、最近の為替相場を勘案して500千円の減収を計上いたしました。

II. 「支出の部」の「会議費」、「ガバナー事務所経費」などについては、委員会の増設、諸物価の値上りなどにより万止むを得ないもののほかは、極力費用支出の節減を計ることといたしました。

なお、「委員会活動費」のうち、前年度に比し増減差の著しいものを以下に列挙しますと、

- (1) 今年度新たに、社会奉仕部門に「緑化推進委員会」およびロータリー財団部門に「ポリオ・プラス委員会」の2委員会が増設され、一応250千円と150千円の予算額を計上いたしました。

- (2) 「ローターアクト委員会」の予算が、前年に比し 3,500 千円 増額計上しましたのは、オーストラリアとの間における、ローターアクターの相互派遣に関する見積費用を、通常年度の費用に、上乗せして計上したためであります。
- (3) 「研究グループ交換委員会」の予算については、今年度実施計画はないが、次年度の準備のために 200 千円を計上することといたしました。

予算は、数量、金高などをあらかじめ策定すること（広辞苑）であり“予算イコール決算”となることは、事実上困難と考えられますが、第 266 地区ロータリアン全員の皆様並びに各委員会関係各位のご理解と、ご協力によりまして、地区活動が、この予算にもとづいて計画的、効率的に、そしてより立派に遂行されることを、切にお願い申し上げる次第であります。

～MEMO～

年度	予算	決算
081.1	081.1	081.1
081.2	081.2	081.2
082.1	082.1	082.1
082.2	082.2	082.2
083.1	083.1	083.1
083.2	083.2	083.2
084.1	084.1	084.1
084.2	084.2	084.2
085.1	085.1	085.1
085.2	085.2	085.2
086.1	086.1	086.1
086.2	086.2	086.2
087.1	087.1	087.1
087.2	087.2	087.2
088.1	088.1	088.1
088.2	088.2	088.2
089.1	089.1	089.1
089.2	089.2	089.2
090.1	090.1	090.1
090.2	090.2	090.2

年度	予算	決算	科目
081.1	081.1	081.1	会費
081.2	081.2	081.2	会費
082.1	082.1	082.1	会費
082.2	082.2	082.2	会費
083.1	083.1	083.1	会費
083.2	083.2	083.2	会費
084.1	084.1	084.1	会費
084.2	084.2	084.2	会費
085.1	085.1	085.1	会費
085.2	085.2	085.2	会費
086.1	086.1	086.1	会費
086.2	086.2	086.2	会費
087.1	087.1	087.1	会費
087.2	087.2	087.2	会費
088.1	088.1	088.1	会費
088.2	088.2	088.2	会費
089.1	089.1	089.1	会費
089.2	089.2	089.2	会費
090.1	090.1	090.1	会費
090.2	090.2	090.2	会費

1987～1988年度 国際ロータリー 第266地区

収 支 予 算 書

作成 昭和62年4月15日

承認 昭和62年5月16日

収入の部

(単位：千円)

科 目	予 算 額	前年度予算額
前 期 繰 越 金	15,000	19,000
R. I. 交 付 金	800	1,300
地 区 資 金 (15,000円×4,600人)	69,000	66,750
雑 収 入	1,000	1,000
合 計	85,800	88,050

ガバナー 松本良諄
 財務委員長 竹内貢啓
 会 計 袴田啓

支出の部

(単位：千円)

科 目	予 算 額	前年度予算額
委 員 会 活 動 費	(20,050)	(22,500)
地区ガバナー指名委員会	200	200
意義ある業績賞委員会	50	30
クラブ奉仕部門		
会員増強委員会	200	200
広報雑誌委員会	450	450
規定情報委員会	500	670
職業奉仕部門		
職業奉仕委員会	150	150
社会奉仕部門		
社会奉仕委員会	400	400
緑化推進委員会	250	0
青少年奉仕部門		
青少年活動委員会	2,200	1,800
インターアクト委員会	2,600	2,600
ローターアクト委員会	8,500	5,000
国際奉仕部門		
世界社会奉仕委員会	150	150
青少年交換委員会	350	350
米山奨学委員会	500	500
国際交流委員会	250	250
拡大部門		
拡大委員会	150	150
ロータリー財団部門		
ロータリー財団委員会	150	0
財団奨学金委員会	1,500	1,500
研究グループ交換委員会	200	7,000
財団増進委員会	250	250
財団学友委員会	400	350
ポリオ・プラス委員会	150	0
委員会活動予備費	500	500
会 議 費	(7,450)	(6,950)
地区大会補助	300	300
地区協議会補助	300	300
地区委員会	2,800	2,500
ガバナー打合せ会議費	1,500	1,300
R. I. 会長記念品代	150	150
同上 歓迎会	350	350
直前ガバナー記念品代	250	250
G.N.国際会議参加補助	800	800
予 備 費	1,000	1,000
日本国内地区ガバナー会	920	890
ロータリー文庫協力費 200円×4,600人	920	890
リハビリテーション世界会議協賛金	920	0
地区大会分担金 3,500円×4,600人	16,100	15,575
ガバナー月信印刷費	(8,800)	(8,300)
製版・印刷・送料・ホルダー	8,500	8,000
予 備 費	300	300
ガバナー事務所経費	21,640	21,890
合 計	76,800	76,995
次 年 度 繰 越 金	9,000	11,055

	62年12月末	61年5月末
クラブ数	65	64
会員数	4,600(子)	4,441

(単位：千円)

ガバナー事務所経費内訳		
科 目	予 算 額	前年度予算額
借 室 料	3,500	3,770
光 熱 費		
給 料	8,850	8,730
ガバナー交通会合費	1,190	1,190
印 刷 費	1,500	1,500
交 通 通 信 費	2,500	2,500
文 献 費	150	150
事務用消耗品費	1,500	1,500
什 器 備 品 費	250	550
雑 費	1,700	1,500
予 備 費	500	500
合 計	21,640	21,890

地 区 大 会

委 員 長 牧 野 耕 二 (大阪東)

幹 事 大 谷 國 明 (大阪東)

I. 昨年来、現地区ガバナーより提示された基本方針に基き地区大会実行委員会を組織し、それを中心に幹事、副幹事で幹事会を運営し、別に各小委員会を設け現在まで数回の会合を開催し、いよいよ細部に亘って検討に入ったところであります。

II. 地区大会の日程及び開催場所は、

昭和63年4月6日(水) 記念ゴルフ大会 茨木C.C.

昭和63年4月8日(金) 会長・幹事懇談会
部門別協議会
RI会長代理歓迎晩餐会 } ホテルニューオータニ大阪

昭和63年4月9日(土) 本 会 議 大阪城ホール

に決定し、既に会場は確保されている。

III. 地区大会の行事内容の概略は近くガバナー月信をもってお知らせ致しますが、本会議会場を大阪城ホールに決定したことにより大阪城を中心とし、大阪城公園の中にある会場で、本会議を行うことの意義を見いだすこととする。

1. 多目的ホールとして大阪城ホールの施設を最大限に活用。
2. 公園の樹々の緑と、桜花咲きほこる花の美が、本大会に花を添えてくれる演出。
3. 以上の活用を基に本大会の内容の充実を計りたい。

IV. 1. 大会両日の会場がホテルニューオータニ大阪と、大阪城ホールに分かれるので近距離ながらその連絡調整。

2. 雨天対策。

3. 駐車場問題。

4. 会場までの交通機関。

5. 総予算案の策定等。

今後、十分に検討すべき多くの問題をかかえ、現在実行委員会及び各小委員会で会場の実地見学、現地における数度にわたるミーティングを行い鋭意構想を検討中である。

V. 参加の各位に充分満足していただける大会にしたいものと、ホスト・クラブの総力をあげて準備を進めております。どうか会員各位及びご夫人の暖かいご支援と最大多数のご参加を切望致します。

～ MEMO ～

「手に手つないで」

作詞・東京RC 矢野 一郎
作曲

手に手つないで つくる友の輪

輪に輪つないで つくる友垣

手に手 輪に輪 ひろがれまわれ 一つ心に

おお ロータリアン おお ロータリアン

手に手つないで つくる友の輪

輪に輪つないで つくる友垣

手に手 輪に輪 ひろがれまわれ 世界と共に

おお ロータリアン おお ロータリアン

